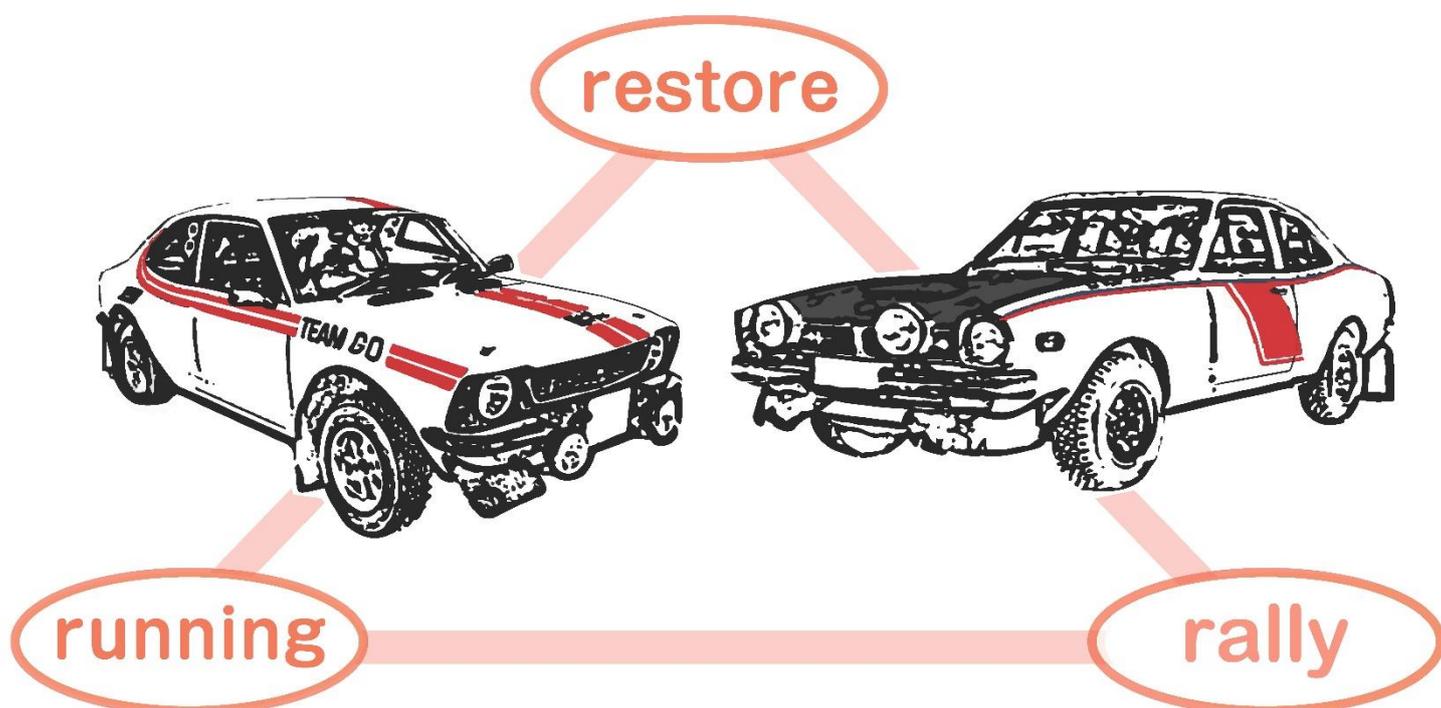


東京大学

海外ヒストリックラリー参戦プロジェクト 2015

中間報告書



~Innovative Way to Victory~



このプロジェクトは東京大学および東京大学大学院の正式な授業として行われております。

はじめに

こんにちは。Team 剛、プロジェクト・リーダーの石田典士です。

この度、Team 剛の2014年10月6日現在までの活動について中間報告書を作成し、参加させて頂いたイベントや、車両の整備、海外イベント等についてまとめました。

どうぞお目通しいただければと思います。

Team 剛が発足してからの6ヶ月、挑戦と失敗、そして新たな挑戦の繰り返しの日々の中で、改めて日本全国のスポンサーの皆様、サポーターの方々に支えて頂いてプロジェクトが成り立っているということを実感しています。

プロジェクトを応援して下さったすべての方にこの場を借りて御礼申し上げます。

東京大学海外ヒストリックラリー参戦プロジェクト2015 Team 剛

プロジェクト・リーダー 石田典士

目次

はじめに.....	1
Team 剛/GO とは.....	3
ものづくり報告.....	4
TE27 カローラ・レビン 整備日誌.....	4
A73 ランサーGSR 整備日誌.....	7
国内イベント報告.....	10
ツール・ド・東北 - 7/19~20.....	10
整備合宿 - 9/6~15.....	11
スプレンドーレ榛名 - 9/14.....	13
運転合宿 - 9/25~26.....	14
TRD ラリーチャレンジ - 10/5.....	15
今後の国内イベント.....	17
着付け報告.....	19
海外出場大会.....	20
RALLY STORY との交渉.....	20
大会出場予定.....	21
渉外報告.....	22
会計報告.....	24
広報報告.....	25
今後の展望.....	27

Team 剛/GO とは

チーム名

5期目を迎えた「東京大学海外ヒストリックラリー参戦プロジェクト 2015」。今年のチーム名は「**Team 剛 / TeamGO**」に決定しました。

第5期が掲げる目標は「海外のヒストリックラリーで世界一を目指す」。21人のメンバー全員でその目標に向かって力強く突き進む、そんなメッセージを込めています。

スローガン

Team 剛が目指すのは世界一という結果だけではありません。世界一を目指す過程に新しさを求め、世界とのつながりを築き、世界から学びながら、日本のものづくりを世界に見せつける。勝利という、いまだかつて達しえなかった高みへ向かって、若さゆえの斬新な切り口で突き進む。そのメッセージを込めたスローガンこそ、

Innovative way to Victory

です。

プロジェクト概要

本プロジェクト「東京大学海外ヒストリックラリー参戦プロジェクト 2015」では、1977年式三菱 A73 ランサーGSR、1972年式トヨタ TE27 カローラ・レビンの二台の車両を、どちらも動かない状態からレストア・改造を行い、欧州で行われるヒストリックラリー競技会に参戦し、優勝することを目標に活動しています。プロジェクトが始動して半年、車両のレストアだけでなく、海外遠征のために必要な様々な活動を行っています。

(プロジェクト・リーダー 石田)

ものづくり報告

TE27 カローラ・レビン 整備日誌

概要

去年まで使っていたトレノのボディの腐食が激しいため、レビンの状態の良いボディを入手し、駆動系や装備をトレノからレビンに移し替えるという方針をとっています。

現状としては、車検を取ってあり公道走行が可能な状態です。多少の不具合はあるものの、一般的な走行をする分には大きな問題はありません。

これからの作業予定としては、現状の細かな不具合を修正していき、ラリー用の装備を施していきます。



整備開始直後のレビン

作業内容(時系列順)

8月下旬 下地塗装

トヨタテクノクラフト様にサーフェーサ塗りをさせていただきました。



トヨタテクノクラフト様で

下地塗装中のレビン

8月下旬～9月上旬 本塗装

ネットヨタ富山様に本塗装をさせていただきました。色は040スーパーホワイトⅡです。

9月上旬～中旬 整備合宿

合計10日間の整備合宿をネットヨタ富山様のご支援のもとで行いました。はじめにエンジンを取り外すこととし、エンジン取り外しにおいて邪魔になるラジエータ等の部品を取り外してからエンジンを取り外しました。その後は各種補機類や足回りの部品をどんどん外していきました。あらかじめ大きなダンボールを広げておいて、各部品の相対的な位置関係を考慮しながらダンボール上に取り外した部品を置くことで、再取り付け時に部品の取り付け位置がわからなくなることを防ぎました。



トレノから取り外したパーツたち

トレノからほとんどの部品を外し終わると、次はレビンに取り外した部品を組み付けていく作業を行いました。この際、交換可能なネジ・ナット類は新品に交換しました。

整備合宿全体を通してみると、車の各 부품の構造を理解すること、正しい工具の使い方、各種作業するにあたっての注意点などを学ぶことが出来ました。



ついにエンジンが載ったエンジンルーム

10月上旬

ステッカーを作成して貼り付けました。デザインは当時参加していたレビンのデザインをアレンジしました。

車検を取ったレビンを試験走行も兼ねてイベント展示させるべく富山まで走らせました。ハンドルセンターの遊びが大きいこととリアスモールランプが点いたり点かなかったりする不具合を確認しました。



TRDラリーチャレンジで展示中のレビン

これからの予定

・問題点の改善

左折ウィンカーが出しにくい→オートリターンの修理

ハンドルのセンター付近での遊びが多い→ステアリングギアボックスの交換

オイルフィルタから漏れが発生している→オイルフィルタの交換

天井内張りの破れ→内張りの新規作成

リアスモールランプの接触不良→接点を磨く

フロントウインドシールドからの雨漏れ→Hゴムをシーラントで目止めする

デフロスタの作動不良→切り替え部の作動改善とデフロスタ配管の固定

キャブレタ調整

・ラリー用装備の取り付け

ロールバー、フォグランプ、ハイマウントストップランプ、ナビライト、バケットシート、ヒューズボックス作成、アンダーガード、リアフォグランプ、ラリー用計器(トリップメータなど)、ラリーコンピュータの製作

(会計部門長 橋本)

初めに

今年度より、浜松で榎BBF ヤマテを経営されている川崎修司様よりお借りした車両を使わせていただいております。70年代のものとは思えないほど状態が良く、通常走行に支障をきたすのはエンジンだけでした。

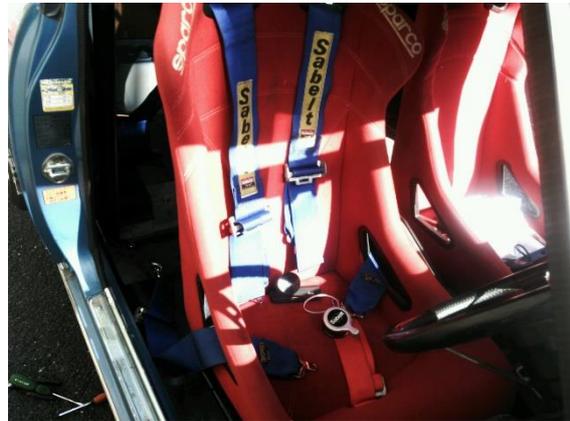
当報告書作成のタイミングまでの目標として「走行が出来る状態までのレストア」を掲げ、夏休みの作業を進めてきました。この章では、その整備日誌という形で内容をいくつか紹介したいと思います。我々の手作りの作業を知っていただければ幸いです。

椅子の取り付け

僕達が始めにに行った作業がこの椅子の取り付けです。4期のバイオレットにて使用されていた椅子をランサーに移すこととなりました。

簡単な作業のはずだったのですが、どこに穴を開けるか、どうすればシートとのずれをなくせるか、その資材はどこから調達できるのかなど、ものづくりの始まりとして多くのことを考えました。

ランサーに元々付いているシートレールを椅子につけることとなりましたが、両者間を固定するものがなく、シートレールに穴を開け、取り付けました。



シート、シートベルトのついたランサー車内

エンジン

元々お借りしたランサーに載っていたエンジンは、調子良く始動するものの、3～5分でオーバーヒート状態となるものでした。ヒータ回路、サーモスタットなどを調べても不具合がなかったため、エンジン内部の問題を疑い、シリンダヘッドを取り外したところ、冷却水路が完全に目詰まりしていました。また、作業の際に固着していたヘッドボルトが折れてしまい、加えてそのボルトを抜こうとした学生がグラインダでボルトを加工中にブロック上面に傷をつけてしまったため、このまま使用するのには困難な状況になっておりました。



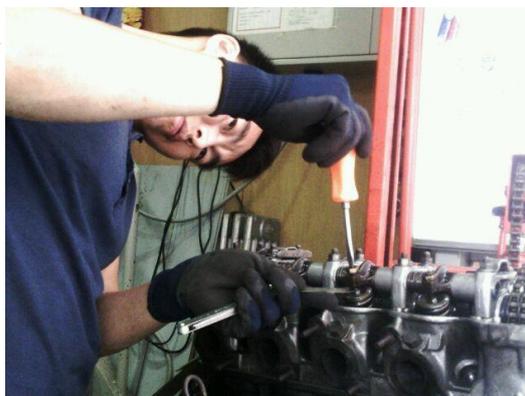
折れたヘッドボルトとグラインダの傷(中央)

そのため他のエンジンを探したところ、鈴木紀昭様のご紹介で、七原典之様より白いA73ランサーを車ごと譲り受けることができました。こちらのエンジンもロッカアームが2本折れて無くなっている上に、動いていた当時も白煙を吹いていたという2点の問題点を抱えておりました。



納屋から引き出されるランサー

ロッカアームの取り付けで直ると思っていたのですが、シリンダヘッドを開けてみたところ、8本有る吸排気バルブのうち4本が曲がっておりました。どうもカムの組み間違いが原因でバルブとピストンがぶつかり、バルブが曲がると共にロッカアームも折れてしまったものらしいことが分かりました。曲がってしまったバルブに関しては、鈴木様から紹介された菊地勉様という元三菱自動車の方がお持ちだった物を使用し、摺合せをして装着しました。各バルブのステムシールもすべて新品に交換し、ウォーターポンプ、ディストリビュータ、吸気系については元々使用していた青ランサーのエンジンからアッセンブリで取り外して移植しました。ただ、排気系に関しては、現時点では白ランサーのエキマニからサブマフラまでを付けているものの、その後の配管がボディ側取り付け部と合わないため、途中で切れている状況です。



エンジン整備中のメンバー



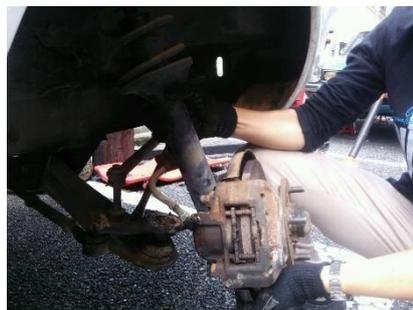
やっと整備完了したエンジン

現状のエンジンの状態は以上になります。マフラをつければ走行可能です。

足回り

ブレーキロータやパッド、シューなどの新品をエンドレス・アドバンス様に製作依頼中です。夏休みの作業として、取り外しを行いました。また、ストラットもそれに併せて取り外しました。オーバーホールするかなど、金銭的費用を含め検討中です。

現在ついているストラットは、鈴木様の紹介で七原様より頂いたもう一台のランサーから拝借したものです。また、ブレーキパイプもねじ切ってしまったため、そちらも今後自分たちの手で新たなものを取り付けます。



ストラットの取り外し



折れたブレーキパイプ(中央)

ボディ

現在は元のランサーのカラーである青ですが、最終的にはラリーモデルである白地に黒と赤の模様となります。これから各イベントの合間を縫って作業を行う予定です。



スプレンドーレ様名展示中のランサー

(ものづくり部門長 田上)

国内イベント報告

ツール・ド・東北 — 7/19~20

2014年7月19日から20日にかけて、青森県弘前市周辺で開催されたツール・ド・東北(C.M.S.C. (コルトモータースポーツクラブ) 青森様主催)のオフィシャル(運営)のお手伝いに伺いました。この遠征が Team 剛として初めてのイベントでした。

今回の遠征では、そもそもラリーとは?という基本的なことを、実際のラリーを間近でみることで学ぶことができました。19日はエントラント(参加者)のブリーフィング、レッキ(コース下見)、車検といったラリーの前に行われる準備を見学させていただきました。ブリーフィングの際にエントラントの方の前でお話しさせていただいたり、チラシの配布をしたり、Team 剛として初めてイベントでの広報活動も行うことができました。C.M.S.C.青森様からいただいたお金は今期初の金銭支援でした。また、レビンのさび落とし等をしていただいたトヨタテクノクラブ様には、この大会での御縁から支援をしていただくことになりました。

大会当日の20日は、実際のコースでオフィシャルのお手伝いをしました。余った時間でラリーの観戦もさせていただき、初めてラリーというもののイメージをつかむことができました。本格的にレストアを開始する前に参加でき、自分たちのやろうとしていることのイメージがつかめたことで、困難の多いこのプロジェクトを進めていく上で大きなモチベーションを得ることができました。

(プロジェクト副リーダー 溝花)



ブリーフィングの様子①



ブリーフィングの様子②



オフィシャル(ストップ・タイム記入)の様子

整備合宿 — 9/6～15

2014年9月6日から15日にかけて、ネッツトヨタ富山様にご協力いただき、レビンの整備のため合宿を行いました。この合宿では整備場所、技術指導から宿泊場所や食事までネッツトヨタ富山様にサポートしていただき、参加メンバーは頭が下がりっぱなしの合宿でした。

富山に到着した初日、まずは塗装を施されて見違えるように綺麗になったレビンとの対面でした。この時点でメンバーは感動していましたが、中身はがらんどろのまま。先は長いです。



全塗装後のレビン

二日目以降は本格的なレストア作業に入りました。大きな流れとしてはトレノからパーツを取り外し、レビンに移植していきます(詳細はものづくり報告をご覧ください)。自分たちではできなかったり丸一日かかった作業が、正しい方法を教わると短時間でできることに驚いてばかりでした。レビンは着々と組み上がっていきました。



整備中のメンバー

しかし、がらんどろの状態から車として完成させるには時間が足らず……。10日までだった予定を12日まで伸ばし、更に15日まで伸ばし、なんとか最後には走るようになったところで整備合宿は終了しました。



整備合宿7日目のレビン

整備合宿中は、ネットヨタ富山様の従業員の方の家でホームステイをさせていただきました。試乗車にも乗せていただいたり、駒場祭の企画で扱うモックカー製作についても教わったり、語りつくせぬほどネットヨタ富山様にお世話になった合宿でした。この合宿で学んだことを活かし、今後整備を行っていきます。



夕食的一幕



整備合宿参加メンバー+お世話になった中新様(中央)、西田様(左端)

(プロジェクト副リーダー 溝花)

2014年9月14日スプレンドーレ榛名にてA73ランサーを展示させていただきました。



展示中のランサー



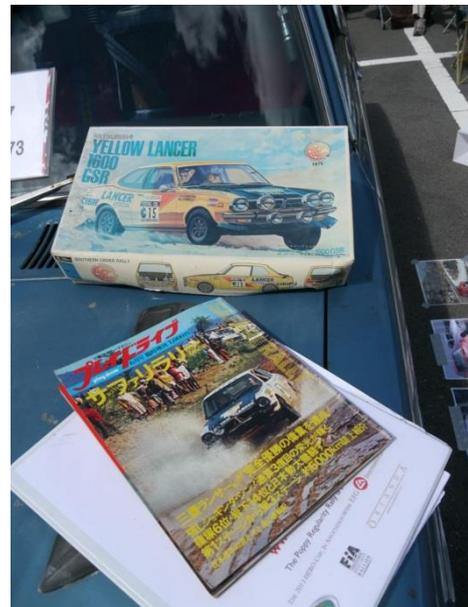
チームの宣伝をするメンバーたち

スプレンドーレ榛名は群馬県高崎市榛名湖町にて催されるヒストリックカー・ラリーです。主催である伊香保おもちゃと人形自動車博物館の横田館長のご厚意により、会場にてランサーを展示、また大会表彰式にて私たち海外ヒストリックラリー参戦プロジェクト2015の告知をさせていただきました。

エンジンは大学にて修理中でありランサー自身はまだ自走できない状態でしたが、往年の名車ランサーに興味を示してくださる方が多く、私たちとしては非常に嬉しく思いました。

偶然ランサーのプラモデルや雑誌を持って大会にいらしていた方とお話しさせていただいたり、仕様やかつての活躍について話が弾んだり勉強になった一日でした。

(渉外副部門長 金山)



ランサーのプラモデルなど

運転合宿 — 9/25～26

2014年9月25日、26日にヒストリックラリーメンバーの運転技術向上とドライバー・コドライバーの役割練習を目的として行いました。コドライバーとは、コマ図(ラリーで使う地図)をもとに通る道のナビゲートを行うドライバーの補助役です。

シャリオ、ゴルフ、パレットの大学公用車3台を使用し、3班に分かれ行動しました。

場所…山中湖周辺。山中寮にて1泊。

1日目

山梨県山中湖村から昇仙峡へ向かい、昼食をとったあと山中寮へ向かいました。

山中寮ではお招きした非常勤講師の国政久郎先生から運転技術についてのお話を伺いました。

その後は複数の目的地を指定した上で、一日目の反省を生かしながら各班2日目のコマ図を製作しました。



メンバーの作成したコマ図



国政先生によるレクチャー

2日目

山中湖から紅葉台を経て勘助坂でゴール。各班集まり昼食をとります。昼食後はアクアのコマmercialで有名な茶畑、富士軍事演習所を経由して山中寮へ戻り、3班集合したところで帰途につきました。



コマ図をチェックするメンバー

全体を通して

コマ図をもとに目的地に向かうという試みは初めてであったので、1日目に与えられたコマ図を使用した際は、次の進路をどのように伝えるべきか、どんな情報があればわかりやすいか等、考えることがたくさんありました。それをもとに2日目のコマ図を作り、他の班に使ってもらった際は、このような点が分かりにくい、分かりやすい等のフィードバックをもらい、これからラリーに出るにあたって非常に有意義な活動でした。また、ドライバーとしても、目的地までに長く狭い道があったり、長距離を走ったりなどと、よい運転経験になりました。



ゴルフ車内から

(ものづくり副部門長 玉井)

2014年10月5日富山県高岡市において行われたTRD ラリーチャレンジのサポートイベントに、本プロジェクトからは昨年度まで使用したトレノと今年度より使用するレビンの2台を出品しました。

今回はTRDというトヨタ系の団体が主催のイベントということもあり私達はレビンとトレノの2台を展示しました。これまで使用したトレノとその内部を移し替えたレビンの2台を対比的に展示することによって、私達Team剛のこれまでの歩みを効果的にアピールすることができました。また、展示資料も2台の変化を効果的にアピールできるものとなることを意識したものです。

雨が降りしきり中での展示となりましたが、アーケード街の入口付近という好立地もあり、来場者は決して少なくはなく、当時を懐かしむ大人から物珍しさにはしゃぐ子供まで幅広い層に好評でした。並行して募金活動も行い、3万円弱という私たちの予想をはるかに超える額の支援金が集まりました。私達の活動とそれにかかる熱意が効果的に伝わった何よりの証拠です。

こういったイベントはこれから多くなりますが、今回の経験を生かして、来場者には私たちの想いがさらに直観的に伝わるようブラッシュアップに努めたいと思います。

(広報部門長 杉崎)



展示中のレビン・トレノ・資料

今後の国内イベント

第42回 M.C.S.C. ラリーハイランドマスターズ 2014

日程：10月17日(金)～19日(日)

開催地：岐阜県高山市

主催団体：松本カースポーツクラブ (M. C. S. C)

公式HP：<http://mcs-c-rally.com/category/highland-masters/>

概要：日本最高峰のラリーである「全日本ラリー選手権」(年間全9戦)の第8戦。今年で42回目を迎える歴史あるラリーであり、今年のチャンピオンが決定する可能性のあるクラスもあるため注目度も高い。今年は新たに林道ステージも追加された。

活動内容：ラリー開催のお手伝い。本プロジェクトの広報活動と支援金集めも並行して行わせていただく。

モータースポーツジャパン 2014 フェスティバル イン お台場

MOTOR SPORT JAPAN 2014 Festival in Odaiba

日程：10月25日(土)～26日(日)

開催地：東京都江東区青海

主催団体：NPO 法人 日本モータースポーツ推進機構

公式HP：<http://www.motorsport-japan.com/msjf/>

概要：お台場で開催される国内最大級のモータースポーツイベント。デモンストレーションランから車両展示、体験型プログラムまで、年代性別問わず楽しめる内容。

活動内容：イベント開催のお手伝い。会場内の公園地区にレビンとランサーの展示を予定。

レジェンド オブ ザ ラリー2014

日程：11月7日(金)～9日(日)

開催地：山梨、長野、群馬

主催団体：マツダスポーツカークラブ

公式HP：<http://www.legend-of-the-rally.org/>

概要：1970～80年代に活躍したラリーカーとラリーストによる本格アベレージラリー。往年の名車と伝説のラリーストが集まる注目のラリー。

活動内容：ラリー開催のお手伝い。レビンとランサーの試験走行。表彰式での本プロジェクトの宣伝。他に、会場内に本プロジェクトを紹介するスペースをいただけないか打診中。

第65回駒場祭

日程：11月22日(土)～24日(月)

開催地：東京大学駒場キャンパス

公式HP：<http://www.komabasai.net/65/visitor/>

概要：毎年11月下旬に東京大学駒場キャンパスで開催され、来場者数は3日間で11万人を超える日本最大級の学園祭。

活動内容：競技車両の展示及び、ネットヨタ富山様にご協力いただいてモックカーの製作教室を開催する。

(ロジスティクス部門 岩田)

着付け報告

私達は海外で交流活動を行うにあたって”日本人”という存在をアピールしたい、海外で恥ずかしくないような立ち振る舞いを身に着けたいとの思いから、非常勤講師である衣紋道高倉流の杵山恵美先生に着物の着付けと礼儀作法の指導をお願いしています。衣紋道高倉流とは、平安時代から現在まで800年にわたり宮中の衣紋を担ってきた、非常に歴史ある装束の着装法です。

夏学期は男女共に浴衣の着付けをご教授いただきました。メンバーの中には浴衣を購入し、独力で着付けをして花火大会等に出かけた者もいました。

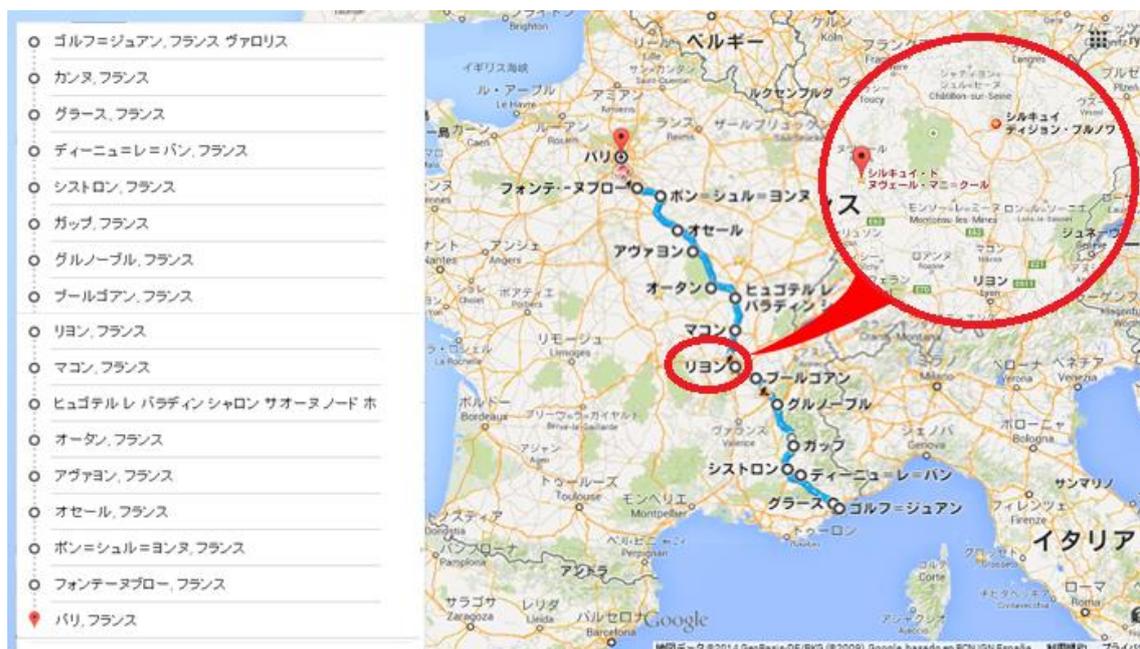
海外では、男性は第一礼装である羽織袴、女性は第一礼装ではないものの一人で着られる着物を着用して現地の人々と交流する予定であり、男性の羽織袴については、株式会社高見(タカミブライダル)様からご提供いただいています。今後はこれらの衣装の着付けを杵山先生から教えていただき、海外に行くまでに独力での着付けと、服装にふさわしい立ち振る舞いを身に着けたいと考えています。

(プロジェクト副リーダー 溝花)

海外出場大会

RALLY STORY との交渉

来年 2015 年の 3 月は、一度帝位を奪われてエルバ島に流されたナポレオンが、再びパリに戻り復権を果たした百日天下からちょうど 200 年の節目にあたります。そこで、それをテーマにしたラリーを開催してもらえないかを Rallystory に交渉しました。Rallystory は、4 期の Team 匠が出場した Rallye de Paris の主催団体です。交渉に際し、ナポレオンに関する文献から当時の足取りを調べ、その近辺のサーキット場と合わせてラリーのコースを提案しました(画像を参照)。またチームメンバーの知人にフランス語の翻訳を手伝ってもらい、こちらの熱意をアピールしました。返答は、他のラリーとの兼ね合いから 3 月中に開催するのは難しいが今後に向けて協議したいとのことで、提案自体には大変興味を示してくださいました。今期での開催は残念ながら実現しませんでした。来期以降に期待したいです。



(広報副部門長 菅)

大会出場予定

出場予定ラリー

Rally de Espana Historico (2月下旬)

Rallye de Paris (3/20-22)

<検討中>

Rally Costa Brava (3月中旬)

<日程交渉中>

Sanremo Rally Storico (4/2-4)



海外遠征中の集合写真(昨年度・第4期)

(ロジスティクス部門 助川)

渉外報告

概要

プロジェクト進行にあたり、ものづくりに必要な物品、海外遠征等に必要な金銭支援をはじめ、活動の様々な場面で多くの企業から支援をいただいています。現在まではものづくりのための物品援助が中心ですが、今後は資金、海外での工場見学や現地が必要になる飲料や衣類等の支援を中心として渉外活動を行っていく予定です。

スポンサー

●ネッツトヨタ富山様

レビンの全塗装を行っていただき、その後計10日間の整備合宿を実施していただきレビンを走れるようにまでしていただきました。また、TRDラリーチャレンジの車両の展示ブースに私達の車両を出させてくださいました。

●MOTUL テクノイル・ジャポン様

オイル等のご支援をいただけることになりました。

●PIAA 様

ランプ・バルブ・ワイパーを数多くご支援いただいています。

●芸文社様

ヒストリックカーファン向け雑誌『Nostalgic Hero』誌2014年8月号にて前年度 Team 匠と私達 Team 剛を取り上げていただきました。今後、同誌に私達の連載記事を載せて頂けることになりました。

●ジェイテクト様

資金援助をいただけることになりました。

●トヨタテクノクラフト様

レビンの塗装の前に必要な、さび落とし～サーフェーサ吹きまでを行っていただきました。

●KARO 様

A73 ランサー用のカーマットをご提供いただけることになりました。TE27 レビンのカーマットも第2期のプロジェクトで KARO 様にご支援いただいたものです。

●高見(TAKAMI BRIDAL)様

現地での国際交流のための和装をご提供いただいています。

●エンドレス・アドバンス様

ブレーキ関係の部品(ブレーキロータ・パッド・シューなど)の新品を作っていただきご提供くださることになりました。

●テイン様

A73 ランサーのサスペンションを特別価格でご提供いただけることになりました。

●座間三菱自動車販売様

A73 ランサー整備のための物資調達等にご協力いただいています。

(プロジェクト副リーダー 松本)

会計報告

今後の予算

支出費目	(単位:千円)	備考
大会エントリー費	1,800	
交通費、渡航費	6,000	200×30人分(保険等含)
輸送費	2,000	3台+サポートパーツ
宿泊費、食費	2,400	4/人・日×30泊×20人
燃料費	1,400	海外1,100 + 国内300
施設借用費	1,200	
車両維持費	300	
全塗装費	150	1台分
修理・改造部品費	1,500	
チームウェア費	2,100	30人分(和装含)
合計	18,850	

(会計副部門長 井戸田)

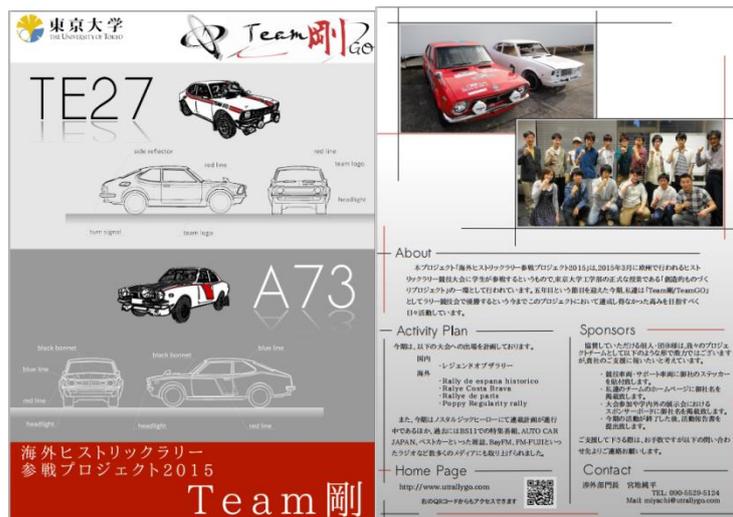
広報報告

概要と今後の展望

本プロジェクトの活動をより広く、そして効果的にアピールするため、雑誌からFacebook、アメーバブログといったソーシャルメディア、先述のイベント出品まで様々なスケール、対象層に向けて広報活動を行ってきました。特に、今期は芸文社発刊の旧車専門雑誌「ノスタルジックヒーロー」において長期大型連載が決定するなど（12月号から8月号まで隔月、計5回の予定）これまでに増して広報活動には力を入れています。

本プロジェクトにおける広報活動は、その最終目標を「広く私達の想いを発信して、新たな支援のきっかけを生み出す」とし渉外活動へと効果的につながるよう心掛けています。参戦車両の完成が間近となった現在、広報活動は、今が最も力を入れるべき時期であり、同時に大きなチャンスが潜んでいる時期です。マスメディア、ソーシャルメディア、所有メディア（HP、チラシ等）の3つのチャンネルを効果的に使い分けて、本プロジェクトの活動、そしてそれにかかるメンバーの想いが広くあまねく届くよう、さらなる活動の強化に努めます。

制作物の一例



<Team 剛チラシ>



< ホームページ (<http://utrallygo.com/>) >



< アメーバブログ (<http://ameblo.jp/univtokyorallygo>) >



(5期紹介記事の拡大)



< ノスタルジックヒーロー2014年8月号 (4期の活動報告と5期の紹介) >

(広報部門長 杉崎)

今後の展望

今後私達は、試験走行のため車両を貸与予定のレジェンドオブザラリー2014に向けて、車両を2台とも競技車両として完成させるべく整備を進めるとともに、海外遠征に向けて必要な渉外活動、様々な媒体での広報活動、車両の輸出やメンバーの旅程等の決定・手配、現地でのサービスの練習、サポートのための技術力向上など、様々な活動を並行して進めていきます。険しい道のりではありますが、**必ず**来年春の報告会で、Team 剛を応援してくださる皆様にご満足いただける**成果**をご報告させていただきます。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。

中間報告書をご覧いただき、ありがとうございました。

Team 剛の今後の活動に、どうぞご期待ください！

発行元；東京大学工学部「創造的ものづくりプロジェクト

海外ヒストリックラリー参戦プロジェクト2015・Team剛」

〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学工学部8号館地下2階0061N実験室内

電話&Fax 03-5841-6298

プロジェクト・リーダー 石田典士

指導教員 機械工学専攻特任教授 草加浩平